

第05回

- 講演者: 井伊 清隆 氏 (山形大学理学部)
 - 題目: $\mathrm{SO}(n+1,1)$ の表現の $\mathrm{SO}(n+1,2)$ の表現への拡張について
 - 日時: 平成 15年 7月 16日(火) 16:00 ~ 17:00
 - 場所: 数学科セミナー室 4号館 3階

n 次元球 S^n に標準的に作用している共形変換群 $\mathrm{SO}(n+1,1)$ は、自然な仕方で S^n のcotangent bundle TS^n 上のsymplectic作用を引き起こす。この作用に対しては「幾何的量子化法」を標準的に適用することができ、その結果、この作用に「対応する $\mathrm{SO}(n+1,1)$ のunitary表現が構成される。一方 TS^n 上のこの作用は $\mathrm{SO}(n+1,2)$ の symplectic作用に拡張できることが知られている。ところが $\mathrm{SO}(n+1,2)$ のこの作用に対しては「幾何的量子化法」を標準的に適用することができず、その結果 $\mathrm{SO}(n+1,2)$ のこの作用に「対応するunitary表現の構成について困難さを引き起こしている。ここでは $\mathrm{SO}(n+1,2)$ のこの作用に「対応するunitary表現を「目分量で」構成する試みについて説明したい。

From:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/> - (旧)理工学部 数学科

Permanent link:

<https://wiki.ma.noda.tus.ac.jp/seminar/2003/005>

Last update: **2017/11/27 10:57**

